

令和6年度研究デザイン 亀山市立昼生小学校

教育大綱 基本方針ー1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

I. 学校教育目標

「心豊かなたくましい昼生っ子の育成」
～ともに学び、楽しさを実感できる教育の推進～

II. 昼生小学校研究主題

「ともに高め合う子どもの育成」
～ 異学年での交流活動を通して～



研究主題設定の理由

① 児童の実態

全校児童が少なく、学年を超えて地域での子どもたち同士のつながりも強い。また、縦割り班活動などを通して他学年との交流も多く、児童会などを中心に学校をより良くする活動を考えたり、それを守ろうとしたりする規範意識の高い児童が多い。学級の友だちと仲良く遊んだり、協力して活動したりすることができたり、話すことが苦手な子の思いを聞き取ろうと耳を傾けたり、友だちが自力でできるようになるまで待ったりという優しい様子が見られる。縦割り班活動や通学班での登下校、地区児童会での活動では、高学年の児童が低学年の児童を世話をする姿も見られ、人を思いやる気持ちが育ってきている。その一方で、学年によって様々な特徴がある。一部の学年では、思ったことをすぐに口に出してしまい、トラブルになったり、他の学年ではトラブルを避けるために本音を抑えてしまったりする傾向がある。

授業においては、異学年合同授業および算数「わたり」授業の中で学習リーダーや上学期の子どもがペアやグループ活動において積極的に話し合いを進めることができる子どもが多い。上の学年がリーダーシップを発揮し、上の学年が下の学年に今まで経験して得たコツなどの手本を示している姿が見られる。学習リーダーが授業を進行する場面では、子どもたちが主体的に自分の意見を述べたり、次の活動を考えたりしている。しかし、教師に促されることで、課題や活動、自主学習や家庭学習へ真面目に取り組むことはできるが、興味のあることや自分の課題をもち、主体的に取り組む子どもが少ない。児童向けの学校生活をふりかえるアンケートでは、「宿題以外に、自主学にとりこんでいますか?」という項目では、肯定的な意見の割合が低く、自分から学習課題を見つけ、主体的に取り組むことに課題が見られる。

これまでの取り組み、成果と課題

昨年度は、異学年交流によって、上の学年のリーダーシップが伸び、新たな考えに触れる機会が生まれたり、発想の幅が広がったりした。異学年交流による取り組みは、仲間づくりの面においても成果があった。異学年での活動を通じて児童の人間関係が広がり、業間や昼休みに異学年で楽しく遊ぶ姿が毎日見られるようになるなど、学校生活や友だち関係に至るまでの交流が促進された。しかし、指導者側に異学年交流の手立ての幅が広がらなかったり、子どもたち自身に異学年交流のよさが十分に実感できなかったりという課題が見つかった。

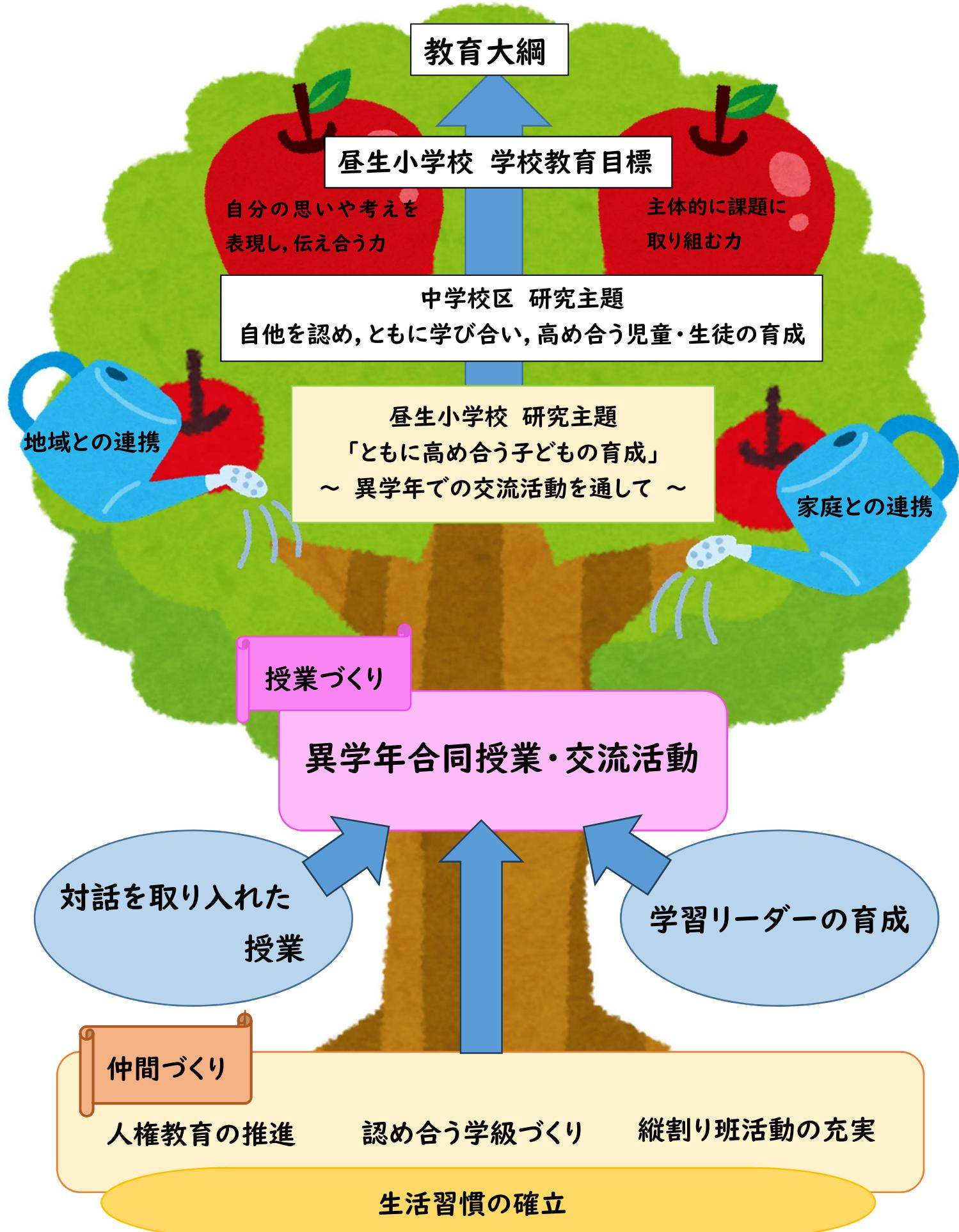
研究主題について

昨年度の成果と課題をふまえ、今年度も引き続き同学年及び異学年での交流活動を通して、全領域において子どもどうしが主体的に対話できる場を設定した授業を展開していくこととする。主に異学年合同授業の中で子どもたちの考えを深めるための具体的な手立てについて研修を行っていく。また、異学年で共に授業を行うことで、多様な考え方ふれることで、学びが深まったり、教え合いなどの学習活動を通じて自らが成長したりといった異学年合同授業の良さを、子どもたち自身が実感できるような指導を工夫していく。更に、算数科での「わたり」授業を実施するにあたって、直接指導時の指導の仕方や間接指導時の学習リーダーの育成についても研修に取り組んでいく。子ども(学習リーダー)が話し合いを主導したりする授業を展開することで、どのように子どもどうしの考えが深まり、互いを高め合っていくかを研究することとする。研究領域は、全領域として、「ともに高め合う子どもの育成」～異学年での交流活動を通して～を主題として取り組んでいく。

III. 研究領域 全領域



研究構想図



具体的な取り組み

授業づくり

(1) 学習リーダーの育成



学習リーダーは、特定の子どもに固定せず、日直を学習リーダーとする。学習規律を整え、学習の司会進行を行う。そのとき、他の子どもたちは学習リーダーに協力する態度を育てる必要がある。そのため、基本的な授業の進め方を子どもたちに伝え、指導していく。

- ・異学年合同授業において、低学年の段階から発達段階に合わせて子どもたちが自ら主体的に学習を進めていく力を身につけさせる。
- ・異学年の子どもたちが互いにかかわりながら、あるいはそれぞれ学年別で、自分たちの力で学習を進めていく姿を目標とし、教師は必要に応じて指導を行う。
- ・学習リーダーの司会を中心とした主体的な学習の経験を重ねることで、学習課題の共有、見通し、課題の追究、ふりかえりという学びを進める力を身につけさせる。

(2) 「対話」を取り入れた授業づくり

- ・聴くときには、「相手が話し終えるまで挙手を待つ」「相手の発言を繰り返せるように聞く」「理解しようとじっくり考えながら聞く」「話の内容をイメージしながら聞く」ことを意識させる。
- ・話すときには、「思考の流れがわかるように伝える」「意見や考えのつながりを意識して発表する」「わからないところを明確に伝える」「粘り強く最後まで伝える」ことを意識させる。
- ・主体的に問題を解決できるような導入の工夫をする。
- ・話し合い活動の場で、「取り上げる・つなぐ・問い合わせる」適切な教師の出場を設定する。
- ・ホワイトボードや、タブレット端末を使用し、考えを共有させる。



仲間づくり

(1) 人権教育の推進

- ・人権・いじめアンケート、「先生と話そう会」の実施および学級づくりに活かすための分析・交流を行う。
- ・見つめる子を中心とした学級づくりを行う。
- ・支援を要する児童の共通理解を全教職員で行う。

(2) 認め合う学級づくり

- ・異学年で構成されていることを生かすために、上学期と下学期が互いに協力していくことを大切にした経営を心がける。
- ・下学期では、上学期に学びそれを生かしていく態度を育成する。
- ・上学期では、下学期に配慮できるリーダーとしての姿勢をはぐくむ。



(3) 縦割り班活動の充実

- ・集会活動では、「聴く姿」「話す姿」を意識して活動させる。
- ・児童会が中心になって、児童が主体的に企画・運営できるようにする。
- ・縦割り班編成を行い、高学年がリーダーになって下級生を引っ張っていくようにする。

【全校遠足・全校田植え・全校稻刈り・運動会・昼生っ子集会・全校あそび等】